読み手に伝わる論理的な英文を書くことができる生徒の育成

大分市立上野ヶ丘中学校　橋本　和恵

はじめに

現在，急速なグローバル化や情報通信技術の進展に伴い，世界に通用するグローバル人材を育成することの必要性が指摘されている。大分県教育委員会では，平成 26 年 10 月に大分県グローバル人材育成推進プランを策定し，必要な資質・能力について明確にした。これからを生きる子どもたちが，世界に挑戦し，多様な価値観をもった人々と協働する基盤となる５つの力の「総合力」の一つを，「知識・教養に基づき，論理的に考え伝える力」（注１）と定義している。また，「自分で考え表現し説得していく力やさまざまな側面から判断していく力が，問題を解決していく際には不可欠である」（注２）と記されている。

平成 28 年度大分県学力定着状況調査では，県下や本校の生徒の実態として，「書くこと」の領域に課題があることが明らかになっており，特に「場面に応じて書く英作文(活用)」の項目の正答率が最も低い等の問題がある。また，平成 28 年度大分県立高等学校入学者選抜学力検査(第一次英語）でも，「内容に対して理由や状況にあった適切な表現で書く」「内容に対しての賛否に複数の理由を付け加えて書く」問いの正答率が低い。これらのことから，求められていることを場面や状況に合うように適切に書いたり，読み手に伝わるよう工夫して書いたりする指導や内容に対しての賛否に複数の理由を付け加えて書く指導が求められている。

新中学校学習指導要領外国語編(5)「書くこと」の目標には，「事実や自分の考え，気持ち等を整理して書くこと」「文章構成の特徴を意識しながら全体として一貫性のある文章を書くこと」「聞いたり読んだりしたことの要点をとらえ，自分の考えたことや感じたことをその理由を交えて書くこと」ができるようになることが掲げられている。

以上のことから，本研究では読み手を意識した論理的な英文を書くことができる生徒を育成するための学習指導の在り方と具体的な手立てを探っていくこととする。

Ⅰ　実態と研究の方向性

１　生徒の実態

(1) 実態調査の方法と内容

大分市立上野ヶ丘中学校第２学年５クラス 167 名を対象に，生徒の実態や課題を明らかにするための実態調査を行った。「テーマについて自分の考えを内容にまとまりのある英文で書くこと」に関して質問紙による意識調査とテーマに対して５文以上の論理的な英文で書くパフォーマンステストを行った。パフォーマンステストに関しては，６つの評価観点で，ルーブリック(資料１)を作成し，それをもとに分析を行った。

資料１　ルーブリック

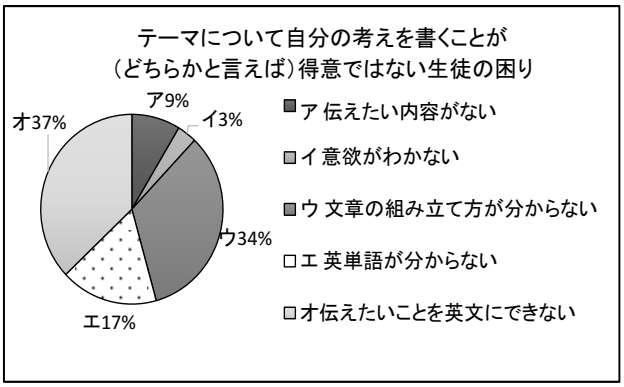
	評価観点		基準		評価
1 内容	①主張	与えられた課題に対して適切で明確な考えが書かれている。（読み手意識）	適切で明確な考えが書かれている。	A	
			関連した考えが書かれている。	B	
			関連性の低い考えが書かれている。	C	
			書かれていない。	D	
	②主張に対する理由	自分の考えを支持する理由が書かれている。（読み手意識）	十分な理由が書かれている。	A	
			書かれているが十分でない。	B	
			自分の考えを支持するものではない。	C	
			書かれていない。	D	
2 構成	③具体例や説明	具体例や根拠が整理されている。また，具体例や根拠が十分で理由に説得力がある。	整理され，理由に説得力がある。	A	
			整理されているが，説得力に欠ける部分がある。	B	
			整理されていない部分，説得力に欠ける部分が多い。	C	
			書かれていない。	D	
	④結論	自分の考えを締めくくる結論が効果的に書かれている。	効果的に書かれている。	A	
			書かれているが弱い。	B	
			書かれているが考えに関係ない。	C	
			書かれていない。	D	
	⑤結束性	伝えたい情報の流れや展開を示すつなぎことばが効果的に使われている。	効果的に使われている。	A	
			使われているが不適切・不十分な部分がある。	B	
			ほとんど使われていない。	C	
			使われていない。	D	
3 正確さ	⑥適切な語彙・文法	正しい綴りと意味で語彙が使われている。正しい語順や文法が使われている。	※下記のミスが２個まで	A	
			※下記のミスが４個まで	B	
			※下記のミスが５個以上	C	
			※十分な文章が書かれていない	D	

※語彙・文法に関するミス
・綴りミス　・正しい意味で語彙を使用していない
・語順ミス　・不完全な文　・時制
・３単現のＳ　・複数形　・前置詞
・日本文化を表すことばの説明の有無

(2) 調査結果からの考察

自分の考えを書くことに，約 53%の生徒が「(どちらかと言えば）好き」と肯定的な回答をしている。しかし，「(どちらかと言えば)得意である」と肯定的な回答をした生徒は約 28%であり，残りの約 72%の生徒は，書くことに自信がないと推察する。その得意ではない生徒の一番の困りは「伝えたいことを英文にできない」，二番は「文章の組み立て方が分からない」であり，伝えたい内容を英文にすることと文章構成が生徒の英作文の主な悩みであることが分かる(資料２)。

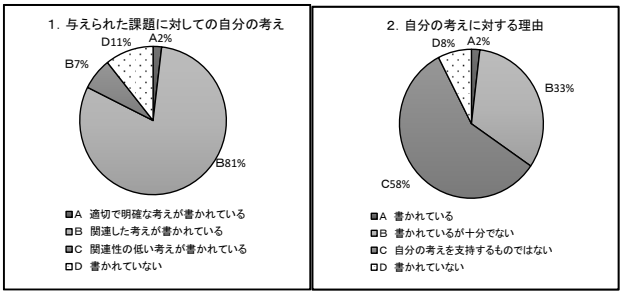
資料２　調査結果　意識調査(事前)



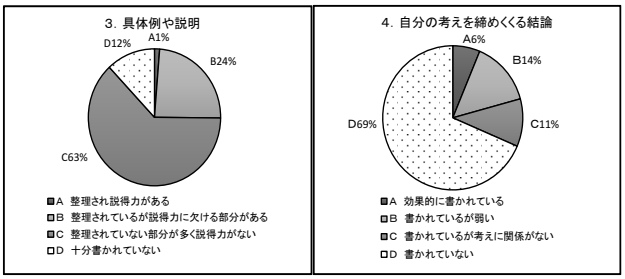
資料３　調査結果　パフォーマンステスト(事前)

この夏日本に来たばかりの ALT の先生に，日本の四季の楽しみ方を紹介しましょう。おすすめの季節を１つ取り上げて，その後に続けてあなたの考えをまとまった内容の英語で書きましょう。

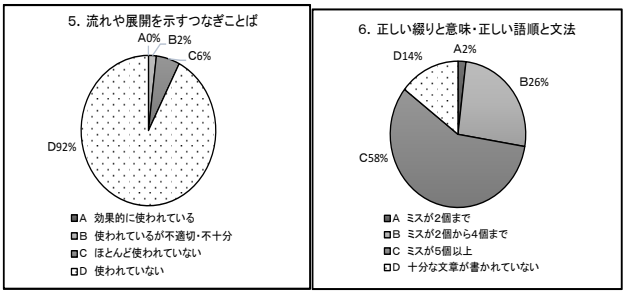
①　ルーブリック観点１　②　観点２



③　観点３　④　観点４



⑤　観点５　⑥　観点６



資料３は，パフォーマンステストの調査結果である。課題に対しての自分の考えについては，I like winter. My favorite season is winter. のように「自分の好きな季節は～です」と書いた生徒が多く，I think you can enjoy winter. と与えられた課題に対して適切で明確な考えが書けた生徒はわずか２％であった。また，その理由についても I eat *omochi.* のように読み手である ALT と共有できるものではなかったりした。これらのことから，与えられた課題や読み手を意識し，自分の考えやその理由を書くことができない生徒が多いことが分析できる(資料３-①②)。

意識調査では，「(どちらかと言えば)伝えたい内容がある」と約 76％の生徒が肯定的な回答であり，与えられた課題についてアイデアを挙げることには抵抗がないように思える。しかし，パフォーマンステストの実態からは文の羅列で概念の整理ができていなかったり，理由があってもそれを支える具体例や説明が十分ではなく説得力がなかったりする生徒が多く見られた(資料３-③)。また，流れや展開を示す接続詞や順序数詞等のつなぎことばは 92％の生徒が使用しておらず，文と文に結束性が見られなかった(資料３-⑤)。更に，自分の考えを締めくくる結論については，Thank you. で終わったり，結論がなかったりする等，結論が主張の言い換えや要約であるといったことが定着していないことが分かった(資料３-④)。これらのことから文章構成の徹底や概念の整理・吟味がされておらず，内容にまとまりがない文章を書く生徒が多いことが分析できる。

正しい綴りと意味・正しい語順と文法等の正確性については，綴りミスは少ないものの，正しい意味で語彙が使われていなかったり読み手に分かる語彙の使用が行われていなかったりが目立った。また，*Bonodori* can wear *yukata.* のように，主語のとらえ違いや不完全な文，語順ミスが多い。こうしたミスが２個までの生徒はわずか２％で，ミスが５個以上の生徒が 58％であったことから，伝えたい内容を正確に英語にできない生徒が多いことも分析できる(資料３-⑥)。

ルーブリックによるパフォーマンステスト全体を 18 点満点(各３点６観点)とし，13 点以上をＡ層，７～12 点をＢ層，６点以下をＣ層とした。事前調査ではＡ層が１％(２人)，Ｂ層が 37％(59 名)，Ｃ層が 62％(98 人)と最も多く，論理的に英文を書くことができない生徒が多いという実態が明らかになった。

２　研究の方向性

(1) 研究課題

前述の実態調査で明らかになった現状から，以下３点を研究課題として考えた。

○内容にまとまりのある英文を書くことの指導が必要である。
○場面や状況，読み手を意識した内容を書くことの指導が必要である。
○伝えたい内容を正確に英文にする指導が必要である。

(2) 取組内容

研究課題を解決するために次のように取組を進めることにした。

①論理の構築と吟味を図るための文章構成指導及び思考を促す教材の作成
②場面や状況，読み手を意識した内容を書くための英作文課題の作成及び生徒同士の振り返りの手立ての工夫
③伝えたい内容を正確に英文にする指導

(3) 目指す生徒の姿

以上のことから，目指す生徒の姿を「読み手に伝わる論理的な英文を書くことができる生徒」と設定し，検証の視点を以下のようにした。

○論理の構築と吟味ができる。
○与えられた課題に対して読み手を意識した考えと理由を書くことができる。
○伝えたい内容を正確に英文にすることができる。

検証授業後のパフォーマンステストにより，「論理的に書くこと」について，６つの評価観点でルーブリックを設定し，検証を行うこととした。

Ⅱ　研究の実際

１　論理の構築と吟味を図るための文章構成指導及び思考を促す教材の作成

(1) 文章構成指導とフォローアップシート作成

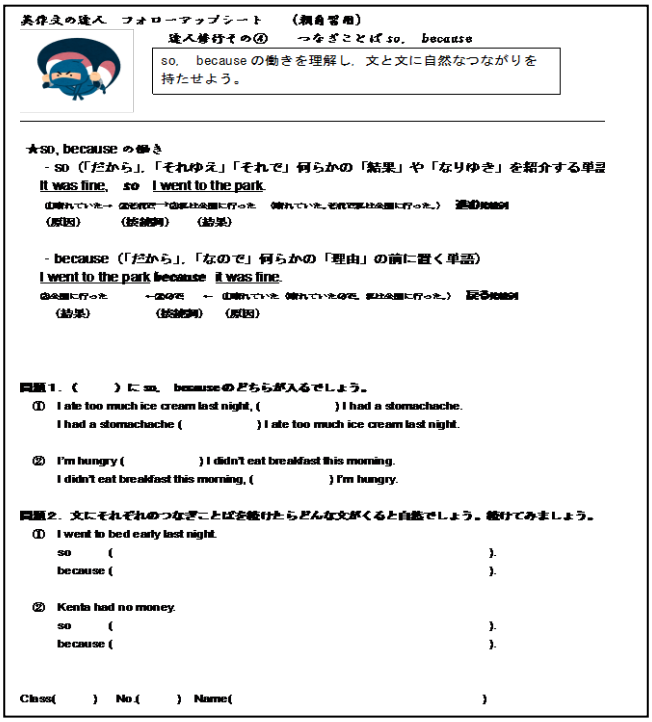
「Ｏ(主張)・Ｒ(理由)・Ｅ(説明・根拠・具体例・経験)・Ｏ(再び主張)」を文章の構成として指導した。論理的な文章を書くためには，主張と主張に対する理由，理由を支える具体例や説明を述べる必要があるため，このＯＲＥＯによる文章構成が適していると考えた。また，上位概念(主張に対しての理由)・下位概念(理由を支える具体例や説明)を指導し，概念の整理や，主張に関連のない概念が吟味されるようにした。更に，文に結束性をもたせるために接続詞や順序数詞等のつなぎことばをＯＲＥＯ構成に併せて指導した。これらの指導内容を検証授業の１時間目で行うとともに，10 回の文章構成フォローアップシート(検証授業前の朝自習で６回，検証授業内で４回)を行った(資料４-①)。フォローアップシート作成にあたっては，学習者が目標を意識できるよう「めあて」を明記すること，接続詞の意味だけではなく働きについても説明を加えること，働きを理解し，その接続詞に続く文章を書かせる等，思考力を働かせながら学習していけることに留意した(資料４-②)。

資料４　文章構成フォローアップシート

①全体計画

	指導項目	めあて	内容
①	より具体的に説明	プラスワン・ツーで相手に自分のことを具体的に伝えよう。	・Yes, No,だけではなく１文２文付け加える。
②	結束性・代名詞	同じ名詞の繰り返しを避け，代名詞を使って文章をよりスムーズにしよう。	・２文目で代名詞に変換する。
③	結束性・つなぎことば but, and, so, or	２つ以上の語句や文を対等につなぐ but, and, so, or の働きを理解し，語句や文につながりを持たせよう。	・接続詞で文をつなぐ。 ・それぞれのつなぎことばに合う英文を考える。
④	つなぎことば so, because	so, because の働きを理解し，文と文に自然なつながりを持たせよう。	・接続詞で文をつなぐ。 ・それぞれのつなぎことばに合う英文を考える。
⑤	文章構成（主張・理由・結論）	「主張」「その理由」「結論」が何かを理解し，内容にまとまりのある文にするためのルールを確認しよう。	・文章の中で「主張」「その理由」「具体例・事実」「結論」を考える。 ・主張に続く文章の並べかえをする。
⑥	アイデアの整理・吟味（上位・下位概念）	アイデアの整理分類をして，読み手に分かりやすい文章を構成しよう。	・上位・下位概念に分ける。 ・「理由」（上位概念）と「具体例・事実」（下位概念）に分ける。 ・不要な文を文章から選ぶ。
⑦	文章構成（ＯＲＥＯ，結束性，アイデアの整理・吟味	内容にまとまりのある文章を書くためにＯＲＥＯ構成，つなぎことば，アイデアの整理・吟味の３つのポイントを意識しよう。	・文章構成を考え，並べかえる。 ・構成に合わせて，つなぎことばを確認する。 ・７文の情報を整理・分類・吟味する。
⑧	⑦の演習	ＯＲＥＯ構成，つなぎことば，アイデアの整理・吟味の３つのポイントを意識しながら問題を解いてみよう。	・⑦の練習問題をする。
⑨	伝えたい内容を正しい英語にする	自分の伝えたい内容を，語順に気をつけたり英語にしやすい日本語にしたりして英語化しよう。	・語順を確認する。　・主語を捉える。 ・易しい日本語にする。 ・長い文を動詞で切る。
⑩	⑨の演習	自分の伝えたい内容を，語順に気をつけたり英語にしやすい日本語にしたりして問題を解いてみよう。	・⑨の練習問題をする。

②フォローアップシート　Ｎｏ．４結束性


英作文の達人　フォローアップシート　（朝自習用）
達人修行その④　つなぎことば so, because
so, because の働きを理解し，文と文に自然なつながりを持たせよう。

★so, because の働き
- so（「だから」，「それゆえ」「それで」何らかの「結果」や「なりゆき」を紹介する単語
It was fine, so I went to the park.
（原因）（接続詞）（結果）

- because（「だから」，「なので」何らかの「理由」の前に置く単語）
I went to the park because it was fine.
（結果）（接続詞）（原因）

問題１．（　　）に so, because のどちらが入るでしょう。
① I ate too much ice cream last night, (　　) I had a stomachache.
I had a stomachache (　　) I ate too much ice cream last night.
② I'm hungry (　　) I didn't eat breakfast this morning.
I didn't eat breakfast this morning, (　　) I'm hungry.

問題２．文にそれぞれのつなぎことばを続けたらどんな文がくると自然でしょう。続けてみましょう。
① I went to bed early last night.
so (　　).
because (　　).
② Kenta had no money.
so (　　).
because (　　).

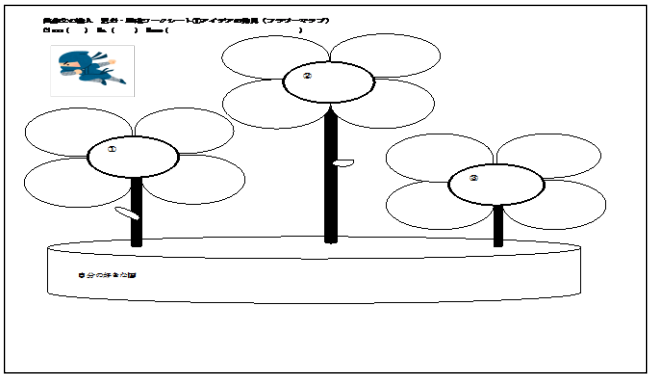
Class(　　) No.(　　) Name(　　)

(2) 思考・構成シートの作成

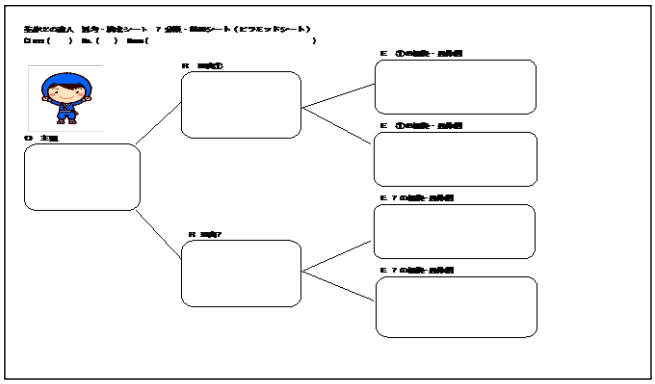
田村・黒上(2014)は，「思考スキルとは，大きくて広い概念である思考を少し具体化して，（中略）思考スキルとして具体化したり，手順を示したりして，考える方向性をイメージさせることが第一歩である」（注３）と言っている。思考を促す思考ツールにＯＲＥＯ構成やつなぎことばをあわせた思考・構成シートを３枚作成する。アイデア発見の際使用する「フラワーマップ」（資料５-①），アイデアの整理・吟味をするための「ピラミッドシート」（資料５-②），更に，構成・つなぎことばを意識させる「ＯＲＥＯシート」（資料５-③）の３枚を，検証授業の３時間目で，実際のテーマについて英文を作る際に活用した。

資料５　思考・構成シート

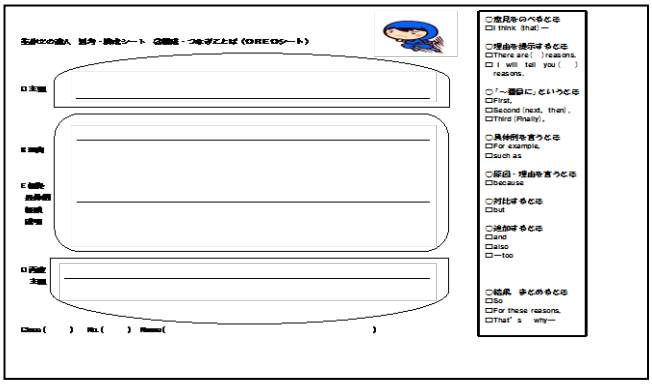
①フラワーマップ（アイデア発見のシート）



②ピラミッドシート（アイデアの分類・整理・吟味）



③ＯＲＥＯシート（構成・つなぎことば）



２　場面や状況，読み手を意識した内容を書くための英作文課題の作成及び生徒同士の振り返りの手立ての工夫

(1) ４行英作文シートの作成

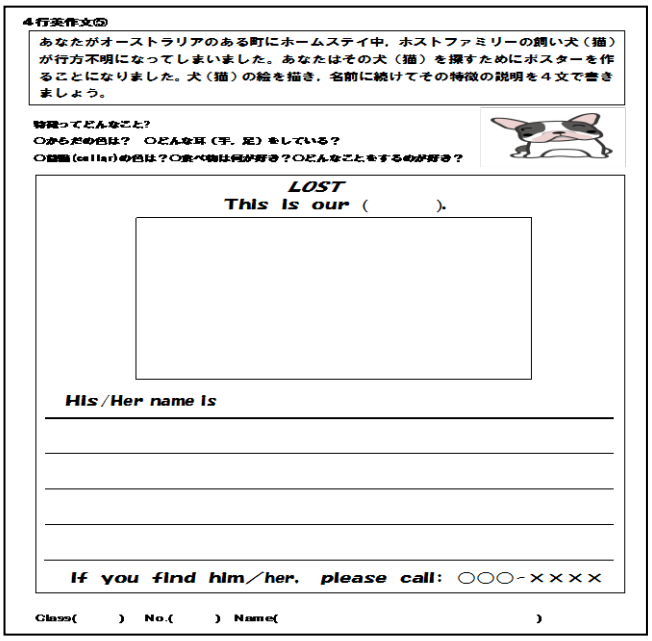
切実で必然性があり，生徒の生活体験をリンクさせる場面設定は，自分の事として考えやすく意見をもちやすい表現活動へとつながる。伝えたい内容を相手に分かってもらえるように順序立てたり，具体的に伝えたりすることは論理的に伝えることにつながると考える。このことから，与えられた課題に対して場面や状況に応じて自分の考えをもち，英文を書くことに慣れることができるように，検証授業までの７回の週末課題で４行英作文(資料６-①②)に取り組ませることとした。『コミュニカティブ・ライティングへの挑戦』(根岸編者)等を参考にしながら，書き手・読み手を意識させる場面設定を行い，英作文課題の作成を行った。読み手に伝わる論理的な英文の観点で添削を行い，その後コモンエラーの共有やよりよい文章になるためのアドバイスを英語科通信で行うこととした。

資料６　４行英作文

①全体計画　　場面設定と視点

	テーマ（場面設定）	書き手と読み手	視点
1	あなたは，英語の授業でＡＬＴの先生に自己紹介カードを提出することになりました。下にあげた内容などを参考にして４文の英文を書き，カードを完成させましょう。	・書き手→日本の中学生 ・読み手→外国人の先生	・読み手に自分のことがより伝わるように具体的に書く（知っていそうな内容は書かない，話にまとまりがあること）。
2	おもしろいことや印象的なことがあった夏休みの一日を選び，その日の出来事をクラスメートに紹介しましょう。１~３文目に事実を，最後の４文目にあなたの感想や気持ちを書いて知らせましょう。	・書き手→日本の中学生 ・読み手→クラスメート（日本の中学生）	・Be 動詞，一般動詞の過去形，過去進行形などを使う。 ・最後に自分の感想や気持ちを表すことばを使う。
3	授業に来ているＡＬＴの先生に向けて，４文で日記を書いてあなたの様子を知らせましょう。「事実」「気付き」「学び」「宣言や将来に向けて」の順に文章をつなげていきましょう。	・書き手→日本の中学生 ・読み手→外国人の先生	・事実の羅列ではなく，４つの条件を使いながら文章全体を自然なまとまりで展開する。
4	あなたは友人の Sam（サム）に向けて手紙を書きます。手紙に同封する写真が１枚あり，写真の余白に説明をつけて送ろうとしています。This is my～で始まる英文で何（誰）の写真か説明した後，４文で説明しましょう。	・書き手→日本の中学生 ・読み手→外国人の友人	・写真の情報をまとまりのある文でより具体的に書く。
5	あなたがオーストラリアのある町にホームステイ中，ホストファミリーの飼い犬（猫）が行方不明になってしまいました。あなたはその犬（猫）を探すためにポスターを作ることになりました。犬（猫）の絵と説明を４文で書きましょう。	・書き手→外国にホームステイ中の中学生 ・読み手→ホームステイ先の町の人々	・読み手が行方不明の犬（猫）を探しやすいようにより具体的に犬（猫）の情報を書く。
6	あなたは外国の友人 Mike（マイク）に旅行先から絵はがきを送ることにしました。自分で旅行先を決め，場所を書き，旅行先での経験やその場所について相手に伝えたいことを４文で書きましょう。	・書き手→日本の中学生 ・読み手→外国人の友人	・旅行先の様子やそこでの経験や感想などを書く。
7	カナダに帰国することになった Kevin（ケビン）先生にクラスで色紙を渡すことになりました。Hi,Kevin.から Good Bye.　の間に４文であなたの感謝の気持ちを書きましょう。	・書き手→日本の中学生 ・読み手→外国人の先生	・先生とのエピソードを交えながら，感謝の気持ちが伝わるように書く。

②４行英作文 No. ５


４行英作文⑤

あなたがオーストラリアのある町にホームステイ中，ホストファミリーの飼い犬（描）が行方不明になってしまいました。あなたはその犬（描）を探すためにポスターを作ることになりました。犬（描）の絵を描き，名前に続けてその特徴の説明を４文で書きましょう。

特徴ってどんなこと?
○からだの色は？　○どんな耳（手，足）をしている？
○首輪(collar)の色は？○食べ物は何が好き？○どんなことをするのが好き？

LOST
This is our (　　).

His/Her name is

If you find him/her, please call: ○○○-××××

Class(　　) No.(　　) Name(　　)

(2) 「ピア・フィードバック」

対話による問いかけや評価の見える化を行い，自己の考えの広がりや深まりを促すことで，読み手により伝わる英文にする手立てを行った。大井(2008)は，文献の中で，「仲間で読むことにより，何より『読み手の存在』という意識が生まれることが重要である。『読み手』を意識して書くということは『説得力をもって書く』ためのライティングにおける重要なストラタジーを身に付けることにつながる」(注４)と述べている。

アイデア発見のフラワーシートにアイデアを書き出した後，ペアの相手にそのアイデアについてもっと知りたいことや分からないことを朱書きで問いかけてもらった。そうすることで，考えを広げ，読み手を意識して詳しく書くことを目的としたフィードバックを設定した。

また，英文の下書き後の活動として，教師用のルーブリックを生徒と共有した生徒用評価シートを使用し，評価の見える化を図ることで，読み手を意識した分かりやすい構成や内容になっているかを見直し，書き直しにつなげるフィードバックを行った。

３　伝えたい内容を正確に英文にする指導

前述したように急速なグローバル化に伴い，他国の人たちと英語を介してコミュニケーションを図る場面が一層増えてくる。英語人口約 17.5 億人のうち英語ネイティブはその約 22%，残り約 78%が第２言語としての英語話者であることを考えると，誰にでも伝わる分かりやすい英語で説明することが必要である。

吉田・柳瀬(2003)は，著書の中で「英語教育の目的はいかに『正しい』形を教えるかではなく，いかに生徒が自ら伝えたい情報を正確に伝え合うことができるか，という視点に変わる。(中略)『英語を一人一人のニーズや能力に適応させる』ことこそが大切である」(注５)と述べている。この著書の中のアウトプットにおける生徒のもどかしさを緩和するための手立てを参考に，４つのコツとしてまとめ，検証授業の２時間目に指導した。一つ目は，英語は語順に厳格な言語であるということを意識させた。二つ目は，日本語は状況依存型の言語であり，主語の概念が希薄で脱落することがあるため，主語が何であるかを適切にとらえ補足する必要があることを指導した。三つ目は，難しい日本語や慣用表現，又は日本文化を表すことばは，まず英語にしやすい日本語にしてから英文にすることを指導した。四つ目に複雑で長い文はそのまま英文にせず，動詞で区切る等していくつかの短文に分け，接続詞でつなぐと英文にしやすいことも指導した。

Ⅲ　検証授業の実際と考察

１　検証授業の実際と視点

大分市立上野ヶ丘中学校２年生５学級を対象に全４時間ずつの検証授業を行った。前半の２時間は，習得の時間とし論理の構築を図る指導や伝えたい内容を正確に英文にする指導を行った。後半２時間は，「好きな国について自分の考えと理由を読み手に伝わる内容にまとまりのある英文で書こう(Project ②)」を題材とし，思考・構成シートや「ピア・フィードバック」の手立てを行いながら，習得した内容を活用する時間とした。また，前述した三つの検証の視点を事後のパフォーマンステストの結果や生徒のテストの記述内容の変容から考察する。

(1) 第１時

この授業のねらいは，まとまりのある英文にするための文章構成，つなぎことばを習得させることと概念の整理ができるようにすることである。

まず，ペアで英文の並べかえとその順番になる理由を考える時間を与え，その後ＯＲＥＯ構成を導入した。次に，ＯＲＥＯ構成に合わせてつなぎことばを確認した。更に，「おすすめの季節」を冬としたときの理由を 7 つの文（資料７-①）として提示し，上位・下位概念に分け，文の整理・吟味を行った。

生徒の様子からは，文の整理・吟味に苦労していることがうかがえた。生徒アのように，冬がおすすめである理由として「たくさん行事がある」，「日本にこたつがある」を上位概念として挙げ，「こたつがある」の下位概念として「日本の伝統的なヒーター(説明)」と「こたつはあたたかくて気持ちいい(根拠)」を挙げ整理ができている生徒もいた(資料７-②)。しかし，Ｃ層の生徒を中心に，生徒イのように，「こたつがある」という上位概念の下に「雪が降る」という下位概念を挙げる等，文の整理・吟味ができていない生徒が目立った(資料７-③)。このことから，習得の段階であるこの時間は，より分類しやすい例文を提示することで，どの生徒も自信をもって文の整理・吟味ができるようにすることが必要であると感じた。

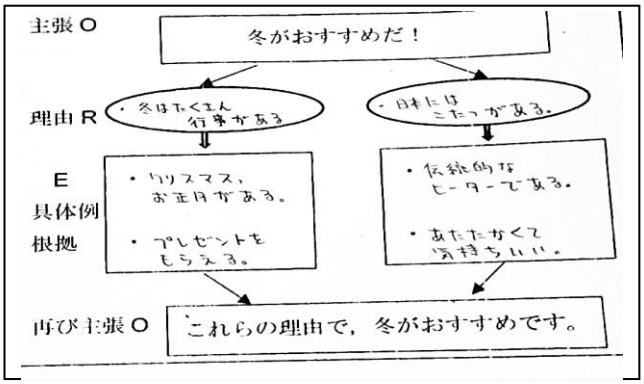
振り返りシートからは，「ＯＲＥＯだと覚えやすい」，「英作文が苦手な私でもＯＲＥＯ構成を使えば書けそうな気がする」といった記述が見られた。

資料７　検証授業１時間目　概念の整理・吟味

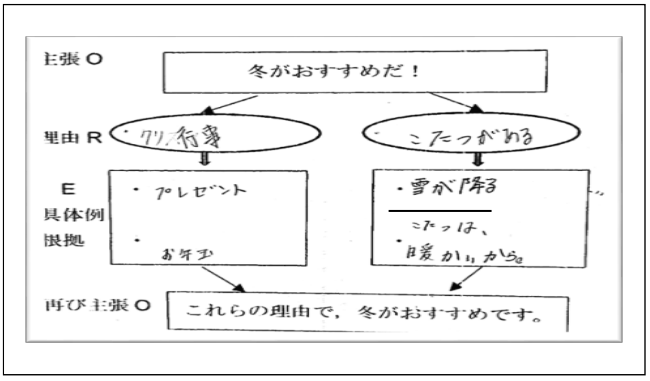
①７つの文(おすすめの季節が冬である理由)

- 日本にはこたつがある。
- クリスマス，お正月がある。
- 冬は雪が降る。
- クリスマス，お正月はプレゼントがもらえる。
- 冬はたくさん行事がある。
- こたつは日本の伝統的なヒーターである。
- こたつはあたたかく気持ちよい。

②生徒ア



③生徒イ



(2) 第２時

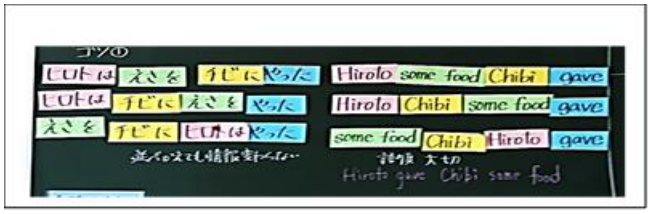
この授業のねらいは，伝えたい内容を正確に英文にする４つのコツを習得させることである。

Ｃ層の生徒も，英文にする際のつまずきを緩和するコツを無理なく習得できるよう，まず例文についてクラス全体で考え，その後ワークシートで各自，演習問題に取り組ませた。一つ目は，語順カード(資料８)を用いて日本語と英語を比較することで，語順の大切さの気付きを促した。二つ目に，日本語ではよく省略される主語を補う指導を行った。事前のパフォーマンステストで「盆踊りで浴衣が着れます」という内容を英文にする際，*Bonodori* can wear *yukata*. と主語のとらえ違いをしていたことから，まず主語を正しくとらえることが正しい英文にすることにつながることを説明した。三つ目は，「腕を上げたい」は「上手になりたい」と言い換えることができ，「英語をぺらぺらしゃべる」は「英語を上手に話すことができる」と言い換えることができる等，まず英語にしやすい日本語に言い換えることを説明した。更に，長く難しい日本語の文をそのまま英文にしようとせず，まず動詞で区切りいくつかの短文にしてから，接続詞でつなぐことが伝えたい内容を正確に英文にする方法の一つであることも説明した。

生徒の様子からは，語順カードの比較により，日本語は語順を変えても伝えたい内容は変わらないが，英語は語順が変われば情報が変わったり伝わらなかったりすることが視覚的に分かり，語順が大切な言語だということを理解した様子がうかがえた。

また，振り返りシートには，「日本語で省略される主語をまず見つけることで英文を作りやすくなることが分かった」「これまで難しく考えすぎていた。易しい日本語にして英文にするコツを使うと表現の幅が広がりそう」等，学習が深まり，次に生かしたいという主体的な学びにつながる生徒の記述が見られた。

資料８　検証授業２時間目　語順の大切さの説明



(3) 第３時

この授業のねらいは，１，２時間目に習得した文章構成や伝えたい内容を英文にするコツを，「ピア・フィ

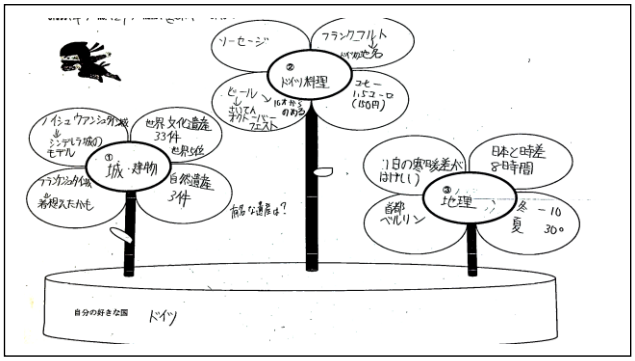
ードバック」や思考・構成シートを使いながら，実際のテーマにしたがって英文を書けるようにすることである。

最初に，「自分の好きな国とその理由」について，それぞれアイデアをフラワーマップに書き出した(資料９-①)。この際，アイデアの書き出しは日本語でもよいとし，Ｃ層の生徒も意欲的にアイデアを書き出すことができるようにした。次に，友達のアイデアが広がり深まるように，朱書きで問いかけを加える「ピア・フィードバック」を行い，読み手を意識する手立てを図った。更に，そのフィードバックを生かしながら，ピラミッドシートに概念の整理・吟味を行った(資料９-②)。最後に，構成とつなぎことばを併せたＯＲＥＯシートに英文を書き上げる活動を行った(資料９-③)。

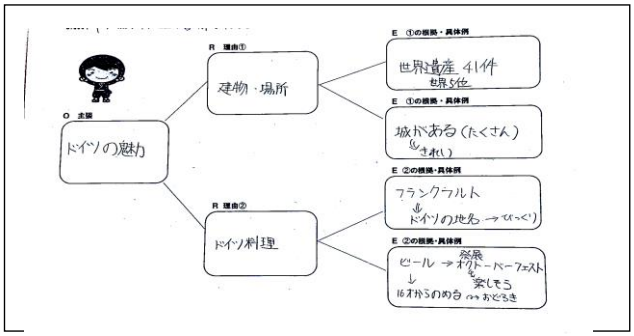
生徒の様子からは，アイデアに対する問いかけの際，「シンガポールは水がきれい」←「本当？」，「日本には和菓子，納豆がある」←「おいしい？」，「スペインには強いサッカーチームがある」←「チーム名は？」(下線部は朱書き)といろんな視点から問いかけができた生徒と，何から問いかけを行えばよいか迷った生徒がいた。その結果，友だちの問いかけを生かし，ピラミッドシートで「レアルマドリードという強いチームがある」とし，ＯＲＥＯシートの英作文に表現できた生徒がいた一方で，他者からは十分なフィードバックが得られず，文章に広がりが見られない生徒もいた。

資料９　思考・構成シート

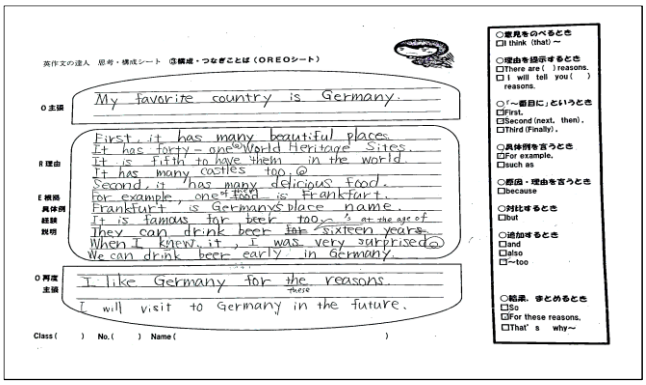
①フラワーマップシート(アイデア発見)生徒シート



②ピラミッドシート(整理・吟味)　生徒シート



③ＯＲＥＯシート(構成・つなぎことば)生徒シート



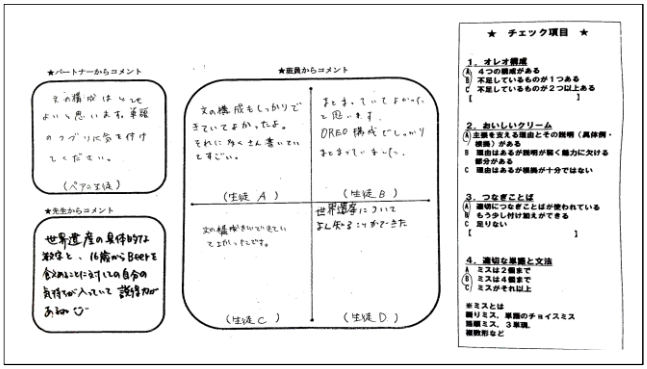
(4)　第４時

この授業のねらいは，できあがった下書きの英文を「ピア・フィードバック」で評価・アドバイスすることで，読み手をより意識したまとまりのある英文に仕上げることである。

授業の生徒の様子からは評価・アドバイスシートを使って，ペアの相手や班内の友達にアドバイスやコメントを行う活動が積極的にできていた(資料 10-①)。具体的には，「ＯＲＥＯ構成できちんと書けている」等，習得した用語を使って友達の作品にアドバイスをしたり，「内容に共感できる」や「新しい情報がほしい。少し物足りない」等，読み手として感じたコメントがあった。また，授業後の振り返りシートには，「具体例はたくさんあったほうが分かりやすいと思った」「似たような理由でも具体例が違ってそれぞれ工夫がされていた」等の記述があり，友達の作品を読んで自分の作品を振り返り，より深まりをもたせようとする生徒が多く見られた。しかし，ルーブリックの内容を生徒と共有した生徒用チェック項目(資料 10-②)にしたがってＡＢＣをつける場面では，相手の作品を評価することに抵抗を感じている様子であった。

資料 10

①評価・アドバイスシート



②評価・アドバイスシート　生徒用チェック項目
（　資料 10－①右側の拡大　）

1．OREO構成	4つの構成がある。	A
	不足しているものが1つある。（　　）	B
	不足しているものが2つ以上ある。（　　）	C
2．おいしい クリーム	主張を支える理由とその説明（具体例・根拠）がある。	A
	理由はあるが，その説明（具体例・根拠）が弱く説得力に欠ける。	B
	理由は説明が十分ではない。	C
3．つなぎことば	適切につなぎことばが使われている。	A
	もう少し付け加えができる。（　　）	B
	足りない。（　　）	C
4．適切な 単語と文法	ミスは（綴りミス，語順ミス，文法ミスなど）2個まで	A
	ミスは4個まで	B
	ミスが5個以上	C

※（　　）には，具体的に何が足りないかを分かる範囲で書き出すように指示した。

2　事前事後の調査結果と検証授業の考察

(1) 論理の構築と吟味を図るための文章構成指導及び思考を促す教材の作成について

事後調査のパフォーマンステスト(資料 11)では，具体例や説明について「整理され説得力がある」「整理されているが説得力に欠ける部分がある」の生徒があわせて 28%増えた(資料 12-①)。文章構成指導(１時間目)で，文章の並べかえやその根拠を伝える思考の時間を設定し，その後ＯＲＥＯ構成の説明したことが，生徒が構成を意識し理由とその具体例を書くことにつながったと考える。また，習得の時間で概念の整理・吟味について理解した後，活用の時間に実際のテーマについて「ピラミッドシート」を使い整理・吟味した経験が，パフォーマンステストで生徒の思考を促す際に生かされていたと考える。

また，つなぎことばについては，「効果的に使われている」生徒は 21%増えた(資料 12-②)。このことから，習得の時間にＯＲＥＯ構成とつなぎことばを確認し，更に活用の時間に「ＯＲＥＯシート」を使って文章を作成したことで，順序数詞 for example, because 等を意識し，英作文の中で効果的に使えるようになったと言える。文の中で展開や流れを示すことができ，以前よりまとまりのある英文になった生徒が多く見られた。

更に，結論については，「効果的に書かれている」生徒が 19%増え，結論は再度自分の主張を要約することであるという意識をもって効果的に自分の考えを締めくくる生徒が増えたことが言える(資料 12-③)。

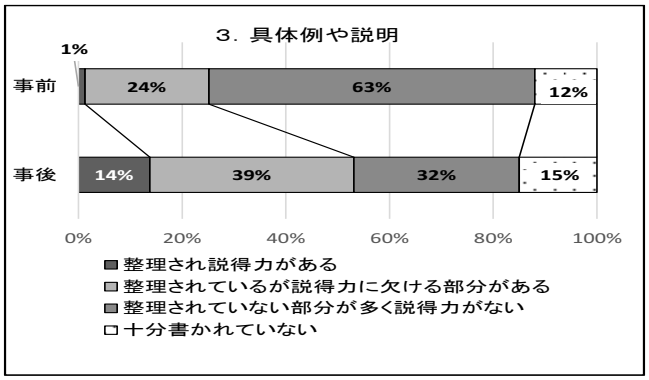
生徒のテストの記述内容の変化から分かるように，文の羅列だった生徒が，事後調査ではＯＲＥＯ構成やつなぎことばを意識し文章を書くことができている。また，理由やその根拠もあり，内容にまとまった文章を書くことができている(資料 12-④)。

資料 11　調査結果　パフォーマンステスト(事後)

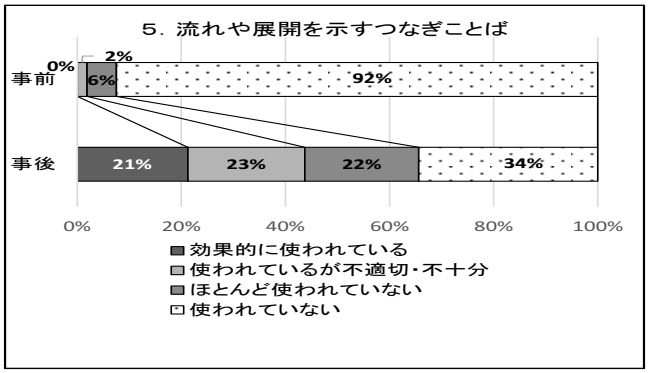
> 次の英語の授業で ALT の先生に自由な時間は何をするのが好きか伝えることになり，発表用の原稿を作成します。あなたの好きなことと，その理由を内容にまとまりのある英文で書きましょう。

資料 12　「論理の構築と吟味」に関する結果

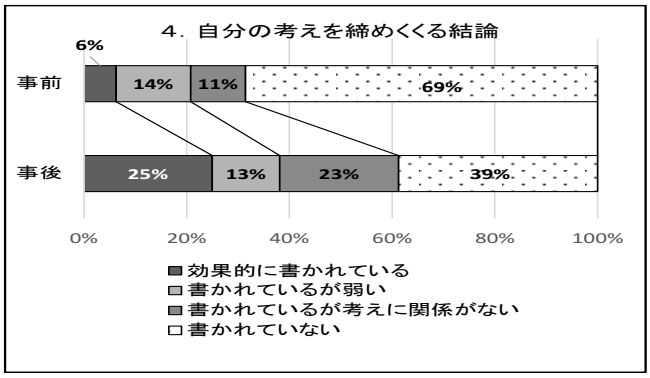
①ルーブリック　観点３「具体例や説明」



②ルーブリック　観点５「つなぎことば」

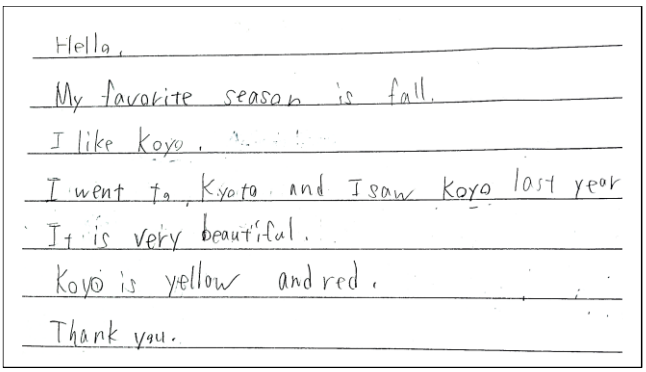


③ルーブリック　観点４「結論」

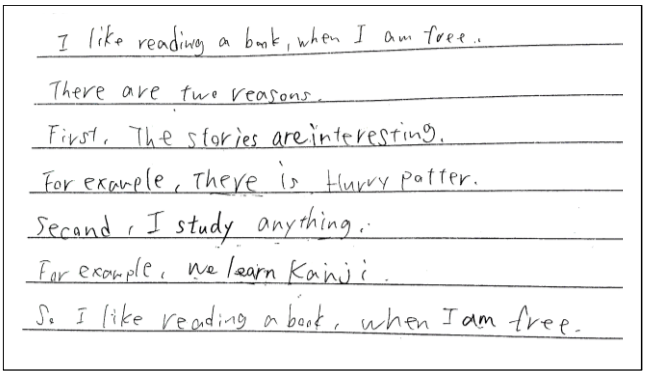


④生徒のパフォーマンステスト記述内容

（事前）


Hello.
My favorite season is fall.
I like Koyo.
I went to Kyoto and I saw Koyo last year
It is very beautiful.
Koyo is yellow and red.
Thank you.

（事後）


I like reading a book, when I am free.
There are two reasons.
First, The stories are interesting.
For exawele, There is Hurry potter.
Second, I study anything.
For example, we learn Kanji.
So I like reading a book, when I am free.

(2) 場面や状況，読み手を意識した内容を書くための英作文課題の作成及び生徒の振り返りの手立ての工夫について

事前のパフォーマンステストでは，「主張やその理由」が場面や読み手に関係なく，相手と共有できない表現で書かれていた。課題に対して読み手を意識した考えとその理由については，「与えられた課題に対して適切で明確な考えが書かれている」生徒が 50%増え，「自分の考えに対しての理由が書けている」生徒は 26%増えた(資料 13-①②)。このことから，７回行った週末課題の４行英作文の取組を通して，与えられた課題で求められた場面や状況を考え，読み手を意識した内容になるよう適切に書くことができるようになったと考える。

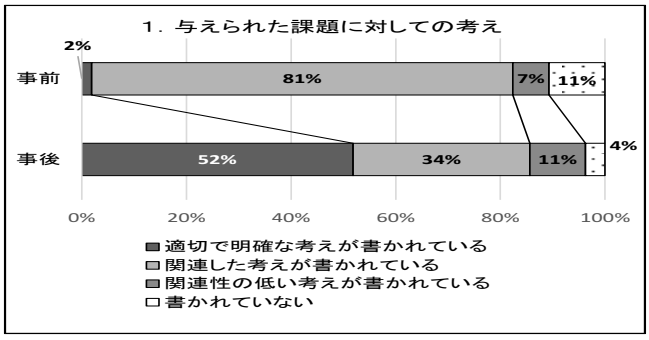
生徒のテストの記述内容から分かるように，事後調査では，状況に応じ求められている主張を適切に書いている。また，読み手意識ができ，主張に対する理由も読み手と共有できるものとなっていることが分かる(資料 13-③)。

しかし，授業内の作品には，読み手の知りたい国の魅力ではなかったり，自分の好きな国として日本を選び，周知の事実を並べたりしたものもあった。この原因として，検証授業でのアイデアを生み出す際の動機づけの弱さと「ピア・フィードバック」の手順の甘さがあったと考える。具体的には，導入時にモデルケースを聞いたり読んだりする中で，書くことへの意欲を高めたり，プレゼンテーションのポイントについて考えさせたりすることで，充実した情報収集ができるものと考える。また，「ピア・フィードバック」での問いかけや評価・アドバイスされた内容を書き直しに生かし切れていなかった生徒もいた。このことから，問いかけは５W１Hの視点で付箋に書き出す等の指示を与えることや具体的な数値を入れた評価基準でＡＢＣ評価する等の具体的な手順の提示が必要であると考える。適切な語彙や文法のチェックは生徒の英語力により難しい生徒もいたため，正確性に関する項目は２対２のフィードバックを行うことも考えられる。

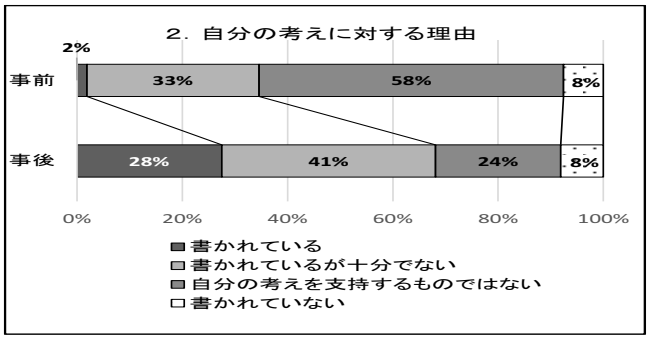
資料 13

「課題に対して読み手を意識した考えと理由」に関する結果

①ルーブリック観点１「課題に対しての考え（主張）」

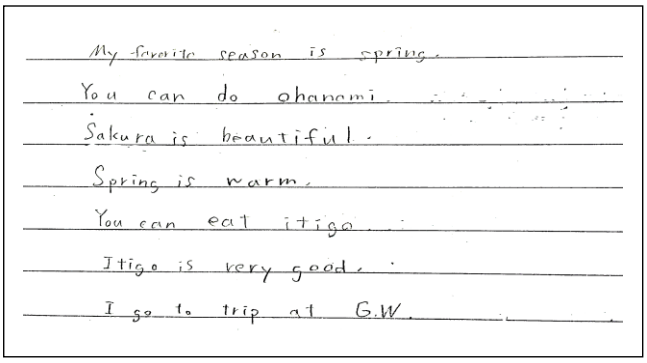


②ルーブリック観点２「自分の考えに対する理由」



③生徒のパフォーマンステスト記述

（事前）


My favorite season is spring.
You can do ohanami.
Sakura is beautiful.
Spring is warm.
You can eat itigo.
Itigo is very good.
I go to trip at G.W.

（事後）

I like reading books.
I have two reasons.
First, There are many stories.
It's interesting.
Second, I can know about history and nature.
For example, I read history book. I can learn about history.
For reasons I like reading books very much.

（事後）

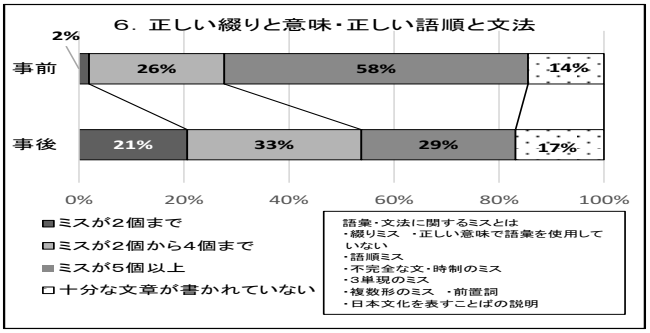
When I am free, I like reading books.
I have two reasons.
First, reading books is a lot of fun to me.
It is very exciting too.
Second, I can learn a lot of things.
For example, I can learn kanji.
For these reasons, I like reading books.

(3) 伝えたい内容を正確に英文にする指導について

事前調査のパフォーマンステストでは，不自然な主語を選んだり，伝えたい内容をそのまま英文にしようとしたりして，難しい言い回しになり伝わらない文章が多かった。正しい綴りと意味・正しい語順と文法等の正確性については，ミスが２個までの生徒が 19%増え，一方でミスが５個以上の生徒が 29%減った(資料 14-①)。このことから，伝えたい内容を正確に英文にする４つのコツの指導が有効的であったと言える。生徒のテストの記述内容から分かるように，事後調査では，自分が習得している文法表現(動名詞，接続詞 when)に変えたり適切に主語をとらえたりすることで，伝えたい内容を正確な英文で書くことができている(資料 14-②)。

資料 14　「伝えたい内容を正確に英文にする」に関する結果

①ルーブリック　観点６「正確性」



②生徒のパフォーマンステスト記述

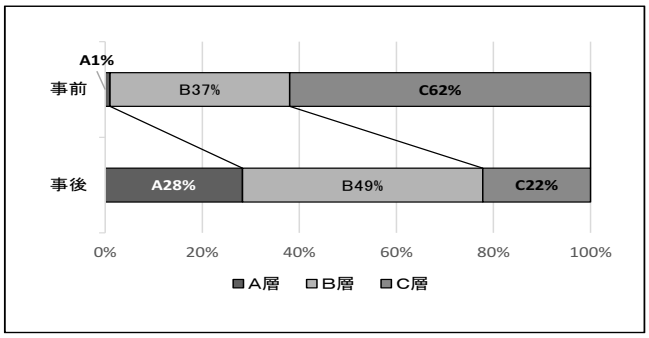
（事前）

My favorite season is summer.
You can enjoy the summer vacation.
The summer vacation have summer festivals. during summer vacation.
You can see a lot of yatai and eat many foods!
You can see hanabi too.
It is very beautiful.
You will enjoy summer in Japanese.
Thank you.

Ⅳ　成果と課題

検証授業後のルーブリックによるパフォーマンステストの結果からは，Ａ層は１%から 28%に，Ｂ層は 37%から 49%に増え，Ｃ層が 62%から 22%に大幅に減り，全体の約 65%の生徒が 1 ランク以上伸びたことから，論理的な英文が書ける生徒が増えたことが言える(資料 15)。

資料 15　ルーブリック評価によるＡＢＣ層の推移



1　論理の構築と吟味を図るための文章構成指導及び思考を促す教材の作成について

「文章構成指導」は，５つの取組内容の中で，最も効果的な取組として，どの層の生徒からも支持された。全体の振り返りシートには，ＡＢＣのどの層の生徒からも「もっているアイデアをどう構成しつなげれば，まとまりのある文章になるのか分かった」といった記述があり，ＯＲＥＯ構成と結束性の指導が効果的であったと言える。検証授業前に文章構成フォローアップシートに取り組んだことで，生徒のつまずきを予測した例文提示や問題を授業で行うことができた。また，接続詞に続く英文を書く等思考力を問う問題を扱うことで，実際の作品やパフォーマンステストでは展開や流れに合う適切なつなぎことばの使用をすることができる生徒が増えたと考える。

課題としては，読み手がより納得するような具体例や説明を述べるための指導をすることである。事後調査のパフォーマンステストでは，「具体例や説明が整理されてはいるが説得性に欠ける」生徒が 39%であった(資料 12－①)。このことは，アイデアを整理できる生徒は増えたが，具体例や説明が事実等の記述に終わっている生徒がまだ多いことを意味している。具体例や説明に，自分の体験や気持ちを加えたり，周知の情報ではなく読み手が「なるほど」と思える情報を加えたりすることも必要である。英文を聞いたり読んだりするやり取りから自分の体験や感想を述べる学習，反転学習の工夫や他教科等との横断的な学習も視野に入れたい。

２　場面や状況，読み手を意識した内容を書くための英作文課題の作成及び生徒の振り返りの手立ての工夫について

４行英作文の取組が最も効果的であったと支持した生徒の振り返りシートには，「自分の書いている英文がどれくらい相手に伝わるのか考えて作る練習になった」といった内容の記述が多く見られた。特にこの記述は，事前のパフォーマンステストでＣ層であった生徒に見られた。このことから，具体的な場面や状況を設定することは，どの生徒にとっても「誰に何を伝えればよいのか」を明確にする大きな手立てであることが言える。また，生徒の生活にリンクする，あり得そうな場面や状況の設定は，「書いてみたい」「読み手に具体的に思いを伝えたい」と意欲をもたせることにつながったと言える。更に，英語科通信で，「４行英作文」のコモンエラーの共有を行ったり，状況に合ったふさわしい英文や読み手を意識した工夫の見られる英文の紹介をしたところ，参考にしながら回数を重ねるごとに，具体的に書いたり場面に合った表現で書いたりする生徒が増えた。

課題としては，「ピア・フィードバック」の具体的な手立てである。フィードバックの問いかけや評価が十分にできておらず，その結果フィードバック後のアイデアの付け加えや文章の書き直しに十分に生かし切れなかった。資料 16 は事前事後調査ともにＣ層であった生徒の各取組の有効性であるが，この層にとっては，「ピア・フィードバック」が「役に立った」と挙げた生徒が半分以下であった。一因として，他生徒の作品を読解できなかったことや自分の英語力不足から貢献度をもつことができなかったと考えられる。また，できた作品を友達に読まれることに自信がないことも考えられる。どの生徒にもこの取組が有効と思えるようにするには，年間を通して生徒同士のよりよい人間関係を築きながら，段階を追って評価の形式や項目を変えていく等，生徒同士が安心して評価し合える環境を作る必要がある。

３　伝えたい内容を正確に英文にする指導について

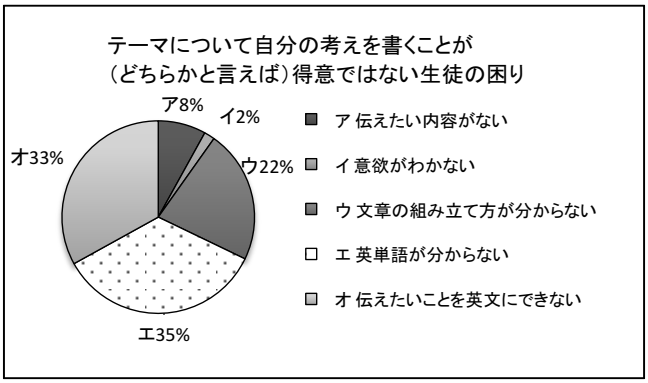
生徒の振り返りシートには，「このコツを知って主語を探したり，日本語を簡単にしたりすることで前より英作文の幅が広がった」という記述が多くあった。資料 17 はテーマについて自分の考えを書くことが得意でない生徒の困りについての意識調査（事後）の結果であるが，事前調査で生徒の一番の困りであった「伝えたいことを英文にできない」生徒は減り，その分，語彙力不足を感じる生徒が増えた。このことから知識の活用の仕方は分かったので，基本となる語彙力を身に付ければ，伝えたい内容を正確に英文にする４つのコツをより活用でき，英作文の幅が広がるといった学習者の主体的な学びにつながったと言える。

課題としては，Ｃ層の生徒への授業内の習熟度別指導の工夫である。Ｃ層の生徒を意識し，全体で例文，その後個人で演習する等の手立てを行ったが，事後調査のパフォーマンステストのルーブリックの観点６「正確性」に関する評価では，Ｃ層の生徒にはほとんど成果が見られなかった。より易しい日本語にするという過程は，知っている英文法や表現に適応させる過程である。このことから，語彙や英文法の習得を苦手とするＣ層の生徒(事前・事後パフォーマンステストともに)には，やや難しく成果の出にくい取組であったと考えられる。今回の４つのコツを細分化し系統的に指導していくことや，使用が予想される語彙や表現をさまざまな生徒層に対応することができるワードバンクを準備する等，授業内の習熟度別指導を行うことが必要である。

資料 16　Ｃ層の生徒が各取組に感じた有効性

	文章構成指導	4行英作文	英文にするコツ	ピア・フィードバック	思考・構成シート
役に立った	67%	55%	61%	**48%**	61%
どちらかと言えば役に立った	27%	45%	36%	**48%**	36%
どちらかと言えば役に立たなかった	6%	0%	3%	3%	3%
役に立たなかった	0%	0%	0%	0%	0%

資料 17　調査結果　意識調査　（事後）



４　今後の方向性

文法習得の際は，使用する場面を想定し，そこに必然性をもたせ,働きを理解し，使い方を身に付けさせるための言語活動の工夫を行いたい。

また，やり取りしたことや読み取ったもの等音声言語で馴染んだものが書くことへと結びつくように技能統合型の言語活動も行っていきたい。

自分の考えや理由を書く活動が，より主体的な深い学びにつながるよう，調べ学習の手立てを示す等して充実した反転学習を図ったり社会科の地理や国語科等他教科との横断的な学習を取り入れたりすることも視野に入れたい。

今回作成した「自分の考えや理由をまとまりのある英文で書くこと」に関するルーブリックの改良と生徒用チェックシートの評価の形式の改善を図りたい。

５　研究の還元

英語科の授業改善の一例として，大分市中学校教育研究会英語部会における研究成果の報告と普及を行う。

・研究報告並びに実践例の提案
・文章構成フォローアップシート，４行英作文シート，思考・構成シート等のデータ提供
・「自分の考えとその理由をまとまりのある英文で書くこと」についてのルーブリックのデータ提供

おわりに

グローバル化や情報化の急速な進展で，これからの社会は，子どもたちにとって，益々，国境を越えてさまざまな人と知恵や力を出し合い協力し合って新しい時代を切り拓いていかなければならないものとなってくる。求められた内容について，自分の考えとその理由や根拠をもち，それらを臆することなく発信することができる生徒を育てていきたい。「論理的に書く」で身に付けることができるものの見方や考え方は，論理的に説明された文章を聞いたり読んだり，また，論理的に話したりすることに通じるものであり，すべての領域に波及することを期待している。

＜引用文献＞

(注１・２)大分県教育委員会『大分県グローバル人材育成推進プラン』p. ６，21　平成 26 年 10 月

(注３)田村学・黒上晴夫(著)『こうすれば考える力がつく！中学校思考ツール』p. 15　小学館 2014

(注４)大井恭子「思考力育成の試み-中学生の英語ライティング指導を通して」『千葉大学教育学部研究紀要　第５巻』p. 183　2008

(注５)吉田研作・柳瀬和明(著)『日本語を活かした英語授業のすすめ』p. 21 大修館書店 2003

＜参考文献＞

根岸雅史(編著)『コミュニカティブ・テスティングへの挑戦』三省堂 2007

大井恭子・田畑光義・松井孝志『パラグラフ・ライティング指導入門』　大修館書店 2008

平成 28 年度大分県立高等学校入学者選抜学力検査(第一次)の分析　平成 28 年６月　大分県教育委員会

平成 28 年度　大分県学力定着状況調査結果　大分県教育委員会　結果の分析　領域「書くこと」

文部科学省　中学校学習指導要領解説外国語編　平成 29 年７月